

2020.02.18 第3回SPARC Japan

# 「リポジトリのグッドプラクティスのための COARコミュニティフレームワーク」と 「国内機関における研究データ管理の取り 組み状況調査」

国立情報学研究所 学術基盤推進部

図書館連携・協力室 JPCOAR事務局

安原 通代

# 本日の内容

---

- 「リポジトリのグッドプラクティスのためのCOARコミュニティフレームワーク」概要
- 「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」について

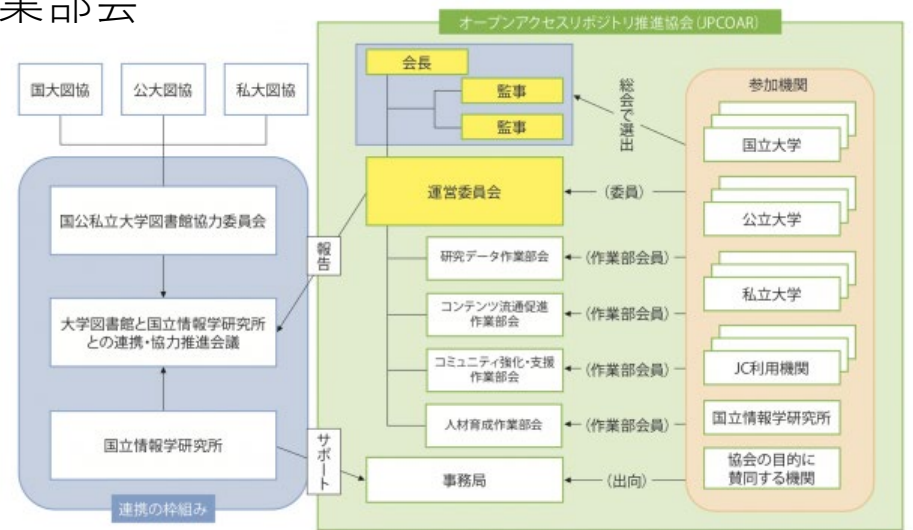
# JPCOARとは

---

- オープンアクセスリポジトリ推進協会
  - JPCOAR : Japan Consortium for Open Access Repository
  - <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>
- 2016年7月 リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的として設立
- 国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所（NII）との間の協定書に基づき設置された「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」と連携し、活動を行っている
- JAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）を NIIと共同運営
- 会員機関数：662機関（2021年1月8日現在）

# 組織

- 総会
- 運営委員会
- 作業部会
  - 研究データ作業部会
  - コンテンツ流通促進作業部会
  - コミュニティ強化・支援作業部会
  - 人材育成作業部会
- 事務局



※JC=JAIRO Cloud

# COARとは

---

- オープンアクセスリポジトリ連合（COAR）
  - Confederation of Open Access Repositories
  - <https://www.coar-repositories.org/>
- 図書館、大学、研究機関など世界中の157のメンバーとパートナーからなる国際協会
- 国際的なリポジトリの協力体制によって学術研究成果の可視化と利活用の促進を目的とする
- 世界中のリポジトリコミュニティの情報共有を中心に、コミュニティ間をつなぐ役割を果たす国際組織

# リポジトリのグッドプラクティスのための COARコミュニティフレームワーク

---

# リポジトリのグッドプラクティスのための COARコミュニティフレームワーク

---

- 2020年10月8日にCOARがリポジトリのベストプラクティスのフレームワークを公開
  - COAR Community Framework for Good Practices in Repositories
  - <https://doi.org/10.5281/zenodo.4110829>
- 12月4日にJPCOARが日本語訳を公開
  - リポジトリのグッドプラクティスのためのCOARコミュニティフレームワーク
  - <http://doi.org/10.34477/00000534>
- COARウェブサイト上では、原文の英語を含め8か国語で公開されている
  - <https://www.coar-repositories.org/coar-community-framework-for-good-practices-in-repositories/>

# 目的

---

- 適用可能、かつ達成可能なグッドプラクティスに基づいて、リポジトリの運用の評価、改善を支援する
- リポジトリ運営における特定の側面を評価するために開発されたフレームワークや評価基準が多数存在するが、これらの基準は異なる組織に散在しており、特定の地域や特定のタイプのリポジトリにしか当てはまらないことが多い
- 様々なタイプのリポジトリ（出版、機関、データなど）が採用し、様々な地理的・テーマ的文脈で利用できるベストプラクティスを評価するための、グローバルで多次元的なフレームワークに関連する基準をまとめている



# 目的

---

- 基準を高く設定しすぎずに、リポジトリがグッドプラクティスを採用できるようにするためのもの
- 正式な認証を実施するために開発されたものではなく、リポジトリの改善を支援する自己評価のためのツールであり、リポジトリのリソースの割り当ての正当性を示すために役立つ
- フレームワークの次のステップとして、ベストプラクティスに準拠できるように支援する、より詳細なガイダンスをリポジトリ管理者に提供するための作業が開始されている

Kathleen Shearer on COAR's newest community framework

<https://www.openaire.eu/kathleen-shearer-on-coar-s-newest-community-framework>

# 作成プロセス

---

- COARワーキンググループが既存のフレームワークをレビューし、ギャップを特定し、その重要性、妥当性、実施可能性のレベルを評価し、各特性を「必須」または「望ましい」に分類
- 2020年6月～8月にCOARメンバーに配布され、コミュニティからの更なるフィードバックを受け付け、反映
  - 採用のしやすさ - 本質的な特性の中に、実施が困難なものはないか？
  - ギャップ - 重要な基準が欠けていないか？
  - 明確性 - 解釈が難しいものはないか？
  - 妥当性 - 不適切なものはないか？
- 今後、COAR はコミュニティがこれらのベストプラクティスを採用する際に役立つ事例やガイド、インストラクションへのリンクや引用を提供していく
- COAR リポジトリ評価作業部会は、毎年7月から8月にかけてフレームワークを見直し、最新のベストプラクティスを反映し、更新する

# フレームワークで取り上げる特性の項目

---

- 発見可能性
- アクセス
- 再利用
- 完全性と真正性
- 品質保証
- センシティブデータのプライバシー（例：被験者情報など）
- 保存
- 持続可能性とガバナンス
- その他

# 発見可能性（必須の特性）

---

1.1 リポジトリは、高品質なメタデータと統制語彙（分野ベース、地域ベース、または一般的な（例：ダブリンコア）メタデータスキーマ）をサポートする

1.2 リポジトリは、OAI-PMH を用いたメタデータのハーベスティングをサポートする

1.3 リポジトリ内のメタデータは、リソースが利用できなくなった場合でも利用可能である

1.4 リポジトリは、リソースが利用できない場合でも、リソースのランディングページを指す永続的な識別子(PID)を割り当てる

1.5 リポジトリは、検索機能を提供しているか、メタデータが外部のディスカバリーサービスやアグリゲータによってインデックスされている

1.6 リポジトリは、1つ以上の分野別または一般的なリソースのレジストリ（re3data, OpenDOAR, またはその他の国, 地域, ドメインのレジストリ）に含まれている

## 発見可能性（望ましい特性）

---

- 1.7 リポジトリは、論文、データ、ソフトウェアなどの関連リソース間のリンクをサポートする（例えば、他の場所にある関連リソースの PID を含む）
- 1.8 リポジトリは、HTTPリンクヘッダをサポートし、アイテムに関連付けられたメタデータレコードやコンテンツリソースの自動的な発見を提供する。COARは、これをサポートするためにSignposting タイプのリンクを推奨する
- 1.9 リポジトリは、著者、資金提供者、資金提供プログラム及び助成金、機関、その他の関連団体に付与された PID をサポートする
- 1.10 リポジトリ内のメタデータは、クリエイティブ・コモンズ・パブリック・ドメイン・ライセンスの下で利用可能であり、標準的な書誌形式でダウンロード可能である
- 1.11 リポジトリのメタデータは、人間が読める形式及び機械が読める形式で利用できる
- 1.12 データの場合、リポジトリは必要に応じて複数の粒度のデータに対するPIDをサポートする（例えば、全データセットのサブセットを用いた研究がある場合には、データサブセットの引用が必要となる）

## アクセス（必須の特性）

---

2.1 ユーザーがリポジトリ内のリソースにアクセスするためのコストは発生しない

2.2 リポジトリは、公示された期間におけるリソースへの継続的なアクセスを保証する

2.3 リポジトリは、障害者のために、文書やメタデータへのアクセスをサポートする

2.4 デバイスの中立性 - ユーザーがリポジトリにアクセスするために特定のデバイスを必要としない

## アクセス（望ましい特性）

---

2.5 リポジトリは、非常に大きなファイルを扱うためのメカニズムを、通常のユーザーインターフェース以外にも提供する（ファイルのサイズがユーザーにとって扱いにくい場合）

2.6 あるリソースへのアクセスが制限されている場合、リポジトリはそのリソースへの間接的なアクセスを手助けする（例：著者に連絡する手段を提供するなど）

## 再利用（必須の特性）

---

- 3.1 リポジトリは、再利用条件を規定するライセンス情報をメタデータレコードに含む
- 3.2 リポジトリは、引用可能なPIDを提供する（1.4参照）
- 3.3 リポジトリは、推奨される、独自仕様でないフォーマットのリストを提供する
- 3.4 ランディングページには、引用に必要な情報を含むアイテムに関するメタデータが機械及び人間が読める形式で掲載される



## 再利用（望ましい特性）

---

3.5 リポジトリは、フルテキストハーベスティングやテキストマイニング・データマイニングをサポートするためのオープンなAPIを持つ

3.6 リソースは、機械可読なコミュニティ標準フォーマットで保存される

# 完全性と真正性

---

- 必須の特性

4.1 リポジトリは、リソースへの不正なアクセスやリソースの不正な操作を防ぐための実践方法を概説した文書を提供するか、またはそれに関するポリシーを持つ

4.2 リポジトリは、リポジトリ内のメタデータとリソースのすべての変更の記録を保持する

4.3 リポジトリは、寄託後のメタデータとリソースのバージョン管理をサポートする

- 望ましい特性

4.4 リポジトリは、メタデータとしてコンテンツ提供者に関する情報（リソースに責任を持つ者や機関の名前を含む）を提供する

# 品質保証

---

- 必須の特性

5.1 リポジトリはメタデータ（及び該当する場合はリソース）の基本的なキュレーションを行う

5.2 リポジトリは、どのようなキュレーションプロセスがリソースとメタデータに適用されているかを概説した文書またはポリシーを提供する

- 望ましい特性

5.3 リポジトリは、リソースとメタデータの外部注釈、コメント、レビューをサポートする

# センシティブデータのプライバシー（例： 被験者情報など）

---

- 必須の特性

6.1 リポジトリがセンシティブデータを収集している場合には、データ所有者が許可されたユーザーのみにアクセスを制限できる仕組みを提供する

- 望ましい特性

6.2 リポジトリがセンシティブデータを収集している場合、リポジトリはデータのセキュリティ要件のレベルの違いに基づいて段階的なアクセスを提供する

# 保存

---

- 必須の特性

7.1 リポジトリ（またはリポジトリを管理する組織）は、リポジトリの管理と資金調達のための長期計画を持つ

7.2 リポジトリは、リソースが長期的に管理される期間を定義した文書を提供するか、またはそれに関する方針を持ち、かつ保存の実践に関する文書を提供する

- 望ましい特性

7.3 リポジトリは、広く受け入れられている保存方法を採用した、文書化された保存アプローチを有する

7.4 寄託者とリポジトリ間の合意文書は、保存責任を果たすために必要なすべての行為、例えばアイテムを複製、変換、保存する権利などを規定する

# 持続可能性とガバナンス

---

- 必須の特性

8.1 リポジトリは、どの組織がリポジトリの管理責任を持つかを明確に示す

8.2 リポジトリは、サービス（またはリポジトリを管理する組織）のガバナンスの性質を明確に示す

## その他（必須の特性）

---

- 9.1 リポジトリには、寄託者や利用者を支援するための窓口又はヘルプデスクがある
- 9.2 リポジトリは、一定の期間内（14 日以内）に質問に回答する旨のお知らせを出す
- 9.3 リポジトリは、受け入れが可能なコンテンツの範囲を概説した文書を提供するか、またはそれに関するポリシーを持つ
- 9.4 リポジトリは、標準的な方法論（例：閲覧数、ダウンロード数）を用いて利用統計を収集し、共有する

## その他（望ましい特性）

---

9.5 リポジトリは、十分にサポートされたオペレーティングシステムとその他のコアな基盤ソフトウェア上で機能する

9.6 投稿/寄託システムは、レコードとリソースについて、作成者による個別のアップロードと一括アップロードの両方をサポートする



# 国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査

---

# RDM事例形成プロジェクト (AXIES-RDM部会との連携事業)

---

- 参加機関によるRDMの取り組みを支援し、データポリシー策定の足掛かりを作成する
- ディスカッションやワークショップを通じて事例集を作成・公開する
- AXIES-RDM部会とJPCOAR研究データ作業部会が連携して実施する

2020 NIIオープンフォーラム

AXIES研究データマネジメント部会合同トラック 「学術機関における研究データ管理フレームワーク」

[https://www.nii.ac.jp/openforum/2020/day2\\_os4.html](https://www.nii.ac.jp/openforum/2020/day2_os4.html)

研究データ管理のステークホルダと事例収集 南山泰之（国立情報学研究所）

<https://www.nii.ac.jp/openforum/upload/cb0bfc6d76ac96dde6c1340e2f86e6be68b4c155.pdf>

# 国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査

---

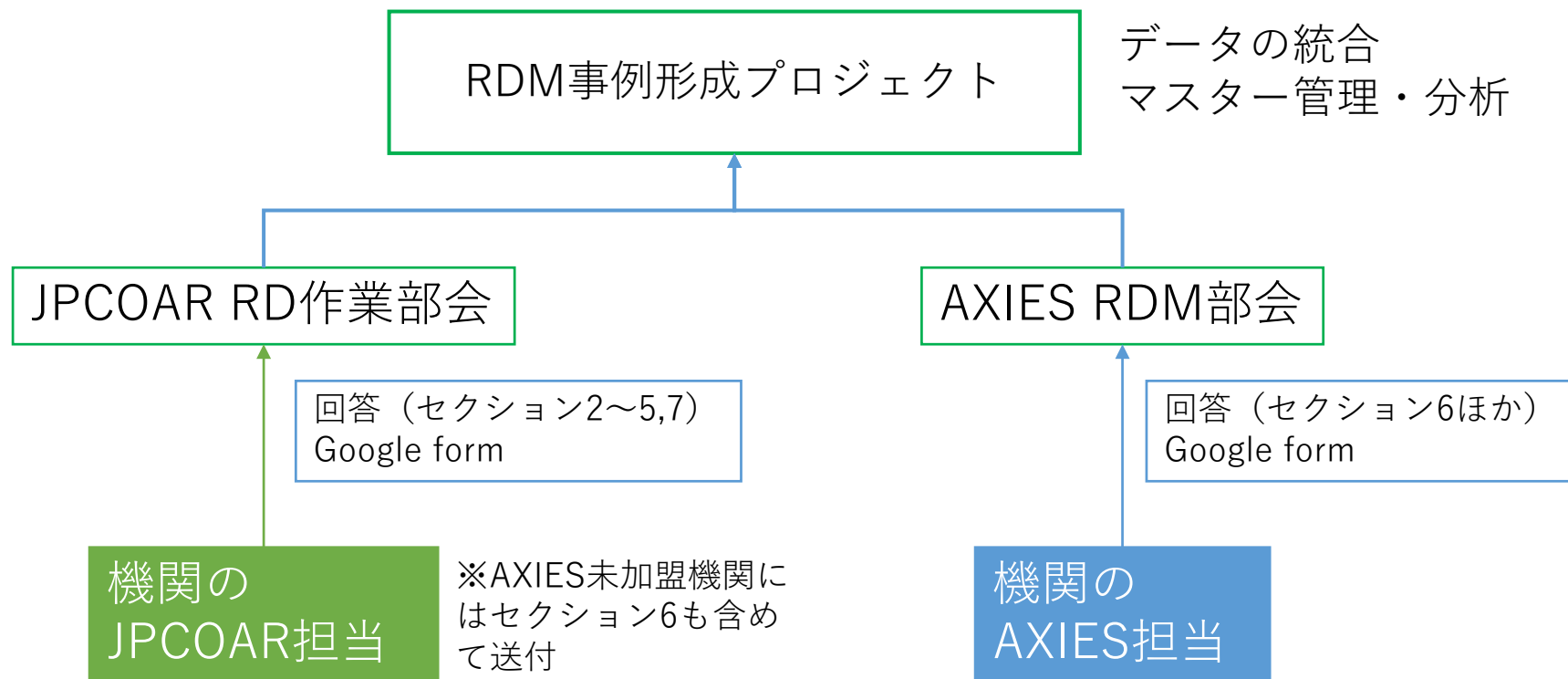
- 目的：国内の大学・研究機関を対象に、機関内での研究データ管理の取り組み状況を把握する
- 調査期間：2020年11月27日～12月28日
- 質問数／所要時間：全46問／約50分
- 対象：JPCOAR会員機関、AXIES会員機関、その他国内機関（計685機関）

# セクション別回答想定先

---

- セクション1（概要説明）：（全1問）
- セクション2（基礎情報）：JPCOAR参加機関 窓口担当部署または機関リポジトリ担当部署（全3問）
- セクション3（ニーズの把握）：機関内の研究データ管理（RDM）担当者／対応部署（全5問）
- セクション4（データ管理体制の構築状況）：研究推進部署／URA等（全6問）
- セクション5（研究データ管理サービスの実施状況）：大学図書館等（全11問）
- セクション6（情報インフラの整備状況）：情報基盤センター等（全18問）
- セクション7（オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）について）：JPCOAR参加機関 窓口担当部署または機関リポジトリ担当部署（全2問）

# AXIES-RDM部会との連携体制



会員機関：657機関  
(うちAXIES加盟機関：112機関)

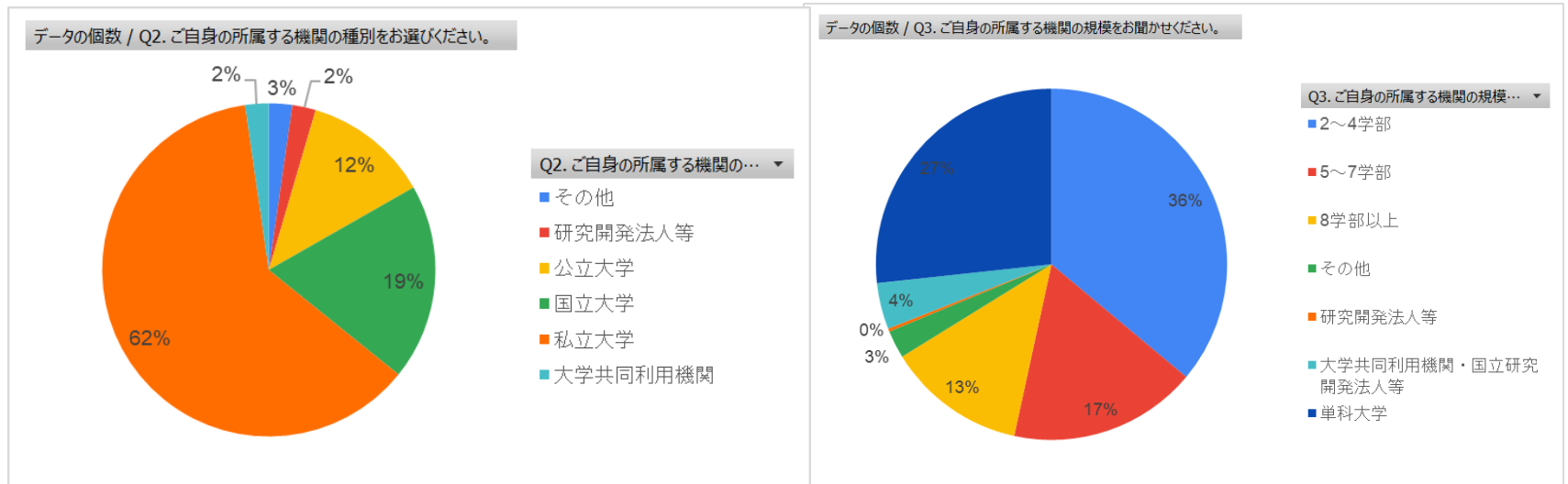
会員機関：133機関 (正会員)

\* 会員機関数は調査開始時の数値

<https://axies.jp/conf/conf2020/>

# 状況調査の実施

- 回答数：計352機関



- 現在、報告書のとりまとめ中